

## 第27回ITER 機構職員募集説明会でのQ&A

### 1. 日時・場所

平成21年6月26日 18:00-19:00 航空会館 202会議室

### 2. 参加者：12名

### 3. ファシリテーター 杉本 誠 原子力機構 ITER 協力調整グループリーダー

### 4. 説明概要：

ITER機構よりプロジェクトオフィス・ヘッドの多田栄介氏をゲストして、ITERプロジェクトの現状や職員募集について対話形式で進めた。主な質疑応答の内容は以下のとおり。

#### 主な質疑応答

Q：ITERプロジェクトにおける課題は、コスト面、技術面のどちらにあるのでしょうか？

A：両方だと思います。技術的な問題とコスト的な問題を上手く折り合いをつけながら、プロジェクトを進めようとしています。

Q：国際機関で働く時の留意点は何でしょうか？

A：メンバーは参加各極から来ており、みんなそれぞれ“自分の考えをハッキリ”と主張します。このため、会議は自分の意見、考え方を主張する場と考えているようです。そのため、漫然と会議に参加する事は出来ないなど、気を抜けません。しかし、ITERのような国際共同プロジェクトでは、一方的に自身の主張だけを述べるのではなく、相手の立場に立つ思いやりを持って他者と接する事も大切だと考えています。

Q：Pグレード、Gグレードの違いはどこにあるのでしょうか？

A：Pグレードのスタッフには着任してすぐにその道で活動できる即戦力が求められます。また、Gグレードのスタッフには最新の技術的ツールなどを使いこなせるなど高い専門性が求められます。

Q：どの様な人材を求めているのでしょうか？

A：いつも前向きに思考する人、熱意を持ってプロジェクトを進めていこうとする人を求めています。

Q：採用試験について、応募書類作成に当たっての留意点は何でしょうか？

A：各ポストにおいて示されているJob descriptionに対して、自分がどの様な

ことをしてきたのか、自身の経験、実績をクリアに、簡潔に書いて欲しいと思います。

Q：応募者における参加極の割合は？

A：EU域内からの応募者は多く、応募者の6割程度を占めています。それに比べて、アメリカ、中国、ロシアなどからの応募者は少ないです。また職員全体で見ると日本人もまだまだ少ないので、日本からもたくさん応募して欲しいと思います。

Q：採用試験について、書類選考の期間はどれくらいですか？

A：募集×切後、一ヶ月を目安に書類選考を終え、応募者には合否を伝えるように人事担当部署は努力しています。しかし、応募者が多く、なかなか一ヶ月では書類選考や、結果の通知が終わらないのが現状のようです。現場からも選考をスピーディに行ってくれるように人事担当部署にお願いしています。

Q：面接試験についての留意点は何でしょうか？

A：繰り返しになりますが、自分の経験、実績をクリアに、簡潔に述べて欲しいと思います。質問の内容が分からなければ、相手に対して聞き返すなど、臨機応変に対応して欲しいと思います。必ずしも美しい英語が必要なわけではありません。

Q：ITER 機構を受験する人たちに一言

A：参加各極から応募してくる人たちは、落ちて元々という気持ちでドンドン応募してきます。また、落ちても挫けず何度も積極的にチャレンジしてきます。日本からも積極的な応募を期待しています。

以上



写真 航空会館で開催された ITER 機構職員募集説明会の様子